



検索・中野あきと

みどりと清流

日本共産党市議会議員 中野あきと事務所ニュース

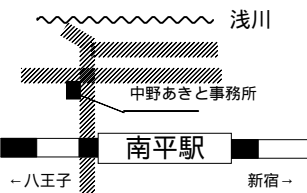
〒191-0041 日野市南平6-25-1 (南平ビル1階)

(電話・FAX 042-599-3350) 発行責任者 小山敏正

2019年
9月発行

第201号

法律・生活相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



今回値上げの対象になったもの

- 住民票などの手数料 200円→300円
 - 以下の施設の使用料
 - ・生活保健センター ・東部会館
 - ・南平駅西交流センター ・落川交流センター
 - ・多摩平交流センター ・新町交流センター
 - ・万願寺交流センター ・平山交流センター
 - ・男女平等推進センター ・発達・教育支援センター
 - ・セツ塚ファーマーズセンター
- 施設コストの50%を利用者負担とする「基準額」を設定し、現行の使用料と比較。現行使用料が基準額に対して不足の場合は引き上げを行う。
ただし、引き上げの上限は現行使用料の1.5倍までとする。

第4回 浅川アユまつり



8月11日、浅川の「ふれあい橋」下広場を中心に「第4回・浅川アユまつり」が開催されました。中野あきと市議も参加、きれいになった浅川で市民と交流しました。

中野あきと市議《9月市議会一般質問》

元副市長をめぐる問題の全容解明

「いま、日野市に求められること」

質疑内容は次号に掲載します。

市民・利用者の声も聞かず 証明書手数料、施設使用料の値上げ

有識者・市民で構成された「日野市手数料、使用料等検討委員会」は、住民票など証明書手数料や各種施設の使用料値上げを「適当」とする報告書を市長に提出しました。

その内容、問題点を見ると……。

値上げで市民活動の停滞も

多くの市民が、文化・芸術・レクリエーションなどの、市民活動の場として利用する施設の使用料改定は、利用している市民や団体などの声や意見を踏まえて行う必要があります。値上げの結果、利用抑制がおり、市民活動の停滞を招けば、市民にとっても日野市にとっても、大きな損失となります。

市民活動は地域コミュニティの維持・再生に不可欠

地域コミュニティを充実させることは、日野市にとっても重要なテーマです。そうした地域コミュニティを維持、再生させていく上で、施設利用者・団体がどんな役割を担っているのが、検討されています。

地域コミュニティの重要な拠点の一つ自治会活動は、活発な活動が維持されている地域もある反面、加入率の低下など、さまざまな困難も抱えています。そうした中、多様なニーズに応じた市民団体、市民活動は、地域コミュニティにとって大切な役割を担っています。

「受益者負担」論は不適切

民間市場やマーケットであれば、提供されたサービスの量や質に応じて、その対価を支払う受益者負担の原則は当然です。しかし、公共サービス、とりわけ市民の人権や福祉、教育に関わるサービスにまで、受益者負担の原則を適用すべきではありません。

市民が、身近で気軽に学び交流し、健康で文化的な営みを行いやすい環境を求めることは憲法上の権利です。日野市など行政は、これに答え保障していく義務があります。

日野市は、町ごとに設置されている地区センター、先駆的な図書館活動など、施設の面でも使用料の面でも、市民の社会教育活動を保障してきたよき伝統があります。

今回の提案は、そうした意味から再検討すべきではないでしょうか。

短信

空襲で両親を亡くし、兄弟別れ別れになりながらも強く生き抜くヒロイン奥原なつ。アニメーションの世界に身を投じ、草分けの一人となるNHKの連続テレビ小説「なつぞら」が、いよいよ最終章です。7月14日付けの「しんぶん赤旗・日曜版」では、ドラマのヒントになった「東映アニメーション」の労働組合が紹介されました。創設時11人の執行部の中に、奥山玲子という女性アニメーターがいました。当時東映動画（後に東映アニメーション）では、女性は入社時に「子どもができたなら辞める」という誓約書を書かされました。労組の要求で出産退職制度は廃止。奥山さんは、子どもを産んで仕事を続けた職場で最初の人となります。▼奥山さんの子育て中に夫へ解雇通告。仕事を済ませ、保育園送迎のために運転免許を取りに行ったことが理由です。労組が会社と交渉し解雇は中止。その時の書記長がスタジオジブリの宮崎駿さん。副委員長はアニメ『火垂るの墓』の高畑勲さんでした。▼「開拓者になれ」と夫に励まされ、子育てをしながら働くヒロイン奥原なつ。日本のジェンダーギャップ指数（男女平等度）は、いまなお149カ国中110位。「子どもを産まないのが問題」、「（LGBTは）生産性がない」など、ジェンダー平等に背を向ける風潮は、政治こそが率先して改めねば。

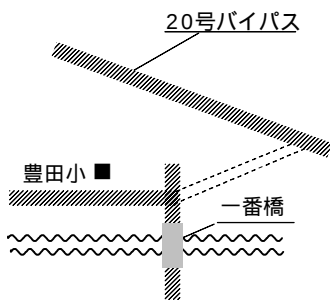
ご質問に答えて

一番橋の北側にある道路はどこにつながるの？

「一番橋を渡った所にある工事中の広い道路はどこにつながるのですか」というご質問が、中野事務所にありました。

この道路は、都道3・3・2号線と言って、完成すれば西方向は多摩川を渡り八王子市内を経て圏央道へ。

東方向は『角上魚類日野店』付近で20号バイパスに接続します。



どう考える…… プラスチックごみ分別・収集の変更

世界の流れにも逆行

海洋プラスチックごみの環境汚染が世界的な問題となる中、日野市では、新たに使い捨てプラスチックの指定袋をつくるということです。プラスチックごみは無くすのが世界の流れです。

これまで無料で回収されていた発泡トレイや発泡スチロールが「プラスチック類ごみ」とされ、まとめて有料回収されることになり、市民の暮らしにさらに負担を掛けることになりました。

「有料、無料の区別をしてごみを資源化・再利用」という、これまで市が行ってきたごみ行政に対しても逆行することになります。

市民への負担増と ごみ資源化に対する逆行

日野市は9月市議会に、「プラスチック類ごみ」を、有料化するための補正予算を提出しました。実施は来年1月からです。この夏に日野市が行った中学校区ごとの説明会では、反対の声とともに、さまざまな戸惑いや疑問の声が上がりました。

この改正について日本共産党市議団の見解を、中野あきと市議に聞きました。

市が行おうとしている方向は、世界の環境政策への逆行ではないでしょうか。

議会の議決にも反する

昨年12月、共産党市議団が反対した「プラスチック類ごみを分別収集し資源化を図るための条例改正」にも反することになります。

改正条例にあたり日野市は、「可燃ごみ袋と、プラスチック類ごみ・不燃ごみ両用袋とする。収集袋は2種類」と説明しました。議会はこの説明を踏まえて賛否を判断し議決したのです。

ところが改正案では、プラスチック類は新たに作る青色の袋で収集し、それ以外の陶器・ガラス類などは、これまでのオレンジ袋で、3種類の有料袋に変更しようとしています。

日本共産党市議団は、以上の見地から補正予算案の撤回を求めるとともに、広く市民の参加による議論で、合意形成の上、議会へ条例案を出し直すことが必要だと提案しています。

中野あきと

< 写真で見る南平と平山の今昔 土のあぜ道の通学路 南平6丁目、南平西部地区センター付近 >



左の古い写真は、一面の水田と畑で人家は見えません。

子どもたちが七生中学校へ用水沿いの土のあぜ道を、そろって通学中です。初冬の頃の風景でしょうか、稲わらが田んぼにあり、子どもたちは厚着をしています。

古い写真は昭和33年（1958年）頃、今の南平6丁目、南平西部地区センター周辺のモノです。左の奥が南平駅です。

浅川近くに住むIさんは、田んぼと畑でさえぎるものは無く、「家から京王線が見えました」と話しています。

新しい写真は、古い写真とほぼ同じ位置からの現在の風景です（2019年8月撮影）。現在の写真からは田んぼだった頃の面影はありませんが、流れる用水がわずかにその頃を思い出させてくれます。（古い写真は南平7丁目在住の清水守男さんの撮影です）

新設の南平4丁目バス停



新設されたミニバス北野街道循環の「南平4丁目」のバス停は、利用者が急増しています。高幡不動駅に行くには便利で早いと言うことで、線路向こうの南平5丁目の方々の利用も増えています。向川原市営住宅からバス停までは徒歩で7～8分です。

要望のつよい、北野街道の南平3丁目、4丁目に、バス停の設置が望まれます。

《次回無料法律相談》

日野市役所 6階共産党控室 午後1時～3時
10月10日（木）お申し込みは下記へ。

清水とし子事務所 042-582-1042

しんぶん
赤旗

日刊・月3497円 日曜版・月930円

短期間のお試し購読。一部売りも。

お気軽にお申し込みを。中野あきと事務所